

シャーデンフロイデに対する嫌悪と妬みの影響

1250387 秋山紗有美

指導教員 三船恒裕

研究背景

シャーデンフロイデの発生に影響を及ぼすものの一つとして妬み感情が考えられているが、Hareli & Weiner (2002) では、シャーデンフロイデと妬み感情の間に関連がみられなかった。この結果に対して北田 (2024) では、すべてのシナリオで時間軸を統一して研究をおこなった。北田 (2024) の結果ではシャーデンフロイデと妬み感情に関連がみられた。しかし、両研究にはシャーデンフロイデを喚起させるターゲットの性別についても違いがある。性別による違いを無くしても時間軸を統一したシナリオを用いるとシャーデンフロイデと妬み感情の間に関連がみられるという結果が得られるのではないかと仮説を立てた。

研究目的

Hareli & Weiner (2002) と北田 (2024) における結果の差が時間軸を統一によるのか、ターゲットの性別の違いによるのかを検討することを目的として本研究を行う。

研究方法

北田 (2024) と同じシナリオを用いた。シナリオは嫌悪ありなし、妬みありなし、さらにターゲットの性別に関して同性、異性、性別不明の3条件を設け12通りのシナリオの内1つを調査対象者にランダムに提示した。その後シャーデンフロイデを喚起させるようにターゲットの不幸に関するシナリオを提示しシャーデンフロイデの程度を測定した。

分析結果

操作チェックより嫌悪も妬みも喚起に成功した。シャーデンフロイデに対して嫌悪の効果、妬みの効果、交互作用が有意であった。シャーデンフロイデの程度は性別による有意な差はみられなかった。

考察・結論

本研究ではターゲットの性別にかかわらずシャーデンフロイデの喚起に嫌悪感情、妬み感情ともに関連することが示された。今後は van Dijk et al. (2006) との結果の差について考える必要がある。